

令和元年度第 1 回あま市総合教育会議議事録要旨

令和元年 7 月 17 日（水）
午後 3 時から午後 5 時まで
あま市美和総合福祉センター
すみれの里 2 階 集会室

1 出席者等

出席者等（委 員）	6 名
（事務局）	1 5 名
（傍聴者）	0 名

2 議題

- （1）あま市公共施設再配置計画について
- （2）ジュニア期のスポーツ活動について

【あま市公共施設再配置計画について】

（説明要旨）

- 「あま市公共施設再配置計画」は、上位計画の「あま市公共施設等総合管理計画」を推進していくために、老朽化した施設や機能・利用圏域の重複する施設の統廃合、複合化等に向けた実施プランとして平成 31 年 3 月に策定した。本日は、教育施設を中心に説明する。
- 計画期間は、2066 年度までの 50 年間。対象施設は、市内にある、延床面積が 50 m²未満の建築物を除いた 139 施設。その内、学校、公民館、体育館の 35 施設が教育部の施設。
- 施設毎に一次評価、二次評価、最終評価を行い、施設の再配置の方針について掲載し、ロードマップについては、総合管理計画に示されている 50 年間の計画期間を 5 期に区分し、再配置の方策を示した。
- 七宝公民館の機能は、南部地域の新複合施設として七宝総合体育館、七宝老人福祉センター及び七宝児童館の機能への複合化を検討する。美和公民館の貸室機能は、篠田防災コミュニティセンターへの複合化を検討する。美和公民館の建物は、複合化した後に解体を基本方針とする。甚目寺公民館はホールの転用が難しいということで、更新時期まで適切に維持管理し、更新時期を目途に、東部の地域新複合施設への複合化を検討する。
- 美和文化会館は、ホール機能を東部地域の新複合化施設に複合化した後に、

解体を基本方針とする。

- 七宝総合体育館は、施設経過年数が 30 年以上なので、第Ⅰ期に大規模な改修の時期を迎えるが、長寿命化は行わず、耐用年数を迎える第Ⅱ期に南部地域の新複合施設への機能の複合化を検討する。また、建物は複合化した後に、解体を基本方針とする
- 甚目寺総合体育館は、稼働状況、市民ニーズのソフト評価が高い一方、第Ⅱ期に大規模改修の時期を迎えるが、長寿命化を行わず、耐用年数を迎える第Ⅲ期に東部地域新複合化施設への機能の複合化を検討する。建物は、複合化した後に解体を基本方針とする。
- 学校は、秋竹小学校を始めとした学級数が標準より少ない学校については、機能の統合を検討する。また、余裕教室の増加が見込まれる学校は、これを解消するために、機能の複合化も検討する。
- 七宝、美和、甚目寺学校給食センターは、新学校給食センターの供用開始に伴い廃止し、解体を基本方針とする。
- 教育相談センターは、学習や軽い運動ができるスペースに加え、不特定多数の方との接触がない環境が必要であるため、当面は民間へ譲渡された甚目寺会館の一階部分（現在と同じ場所）を借用し、将来的に施設の再配置により生じた空スペースへの移転を検討する。
- 公共施設の再配置は、市民との合意形成が重要なので、市民説明会を始め、関係者との調整・協議など、多様な市民参画の機会を設けながら進めていく。
- 市では、所管部署のみならず、全庁横断的な調整を図りながら「再配置計画」と現在策定中の「長寿命化計画」に基づき、長期的な視点を持って、更新・統廃合・長寿命化を実施していきたい。

【主な意見・質疑等】

（意見要旨）

- 公共施設の再配置計画は、私も委員として参加したが、教育委員会の施設が一番多い中で宝小、秋竹小、七宝北中の児童生徒数が非常に少ない。児童数が多くても少なくとも 1 校あたりの維持経費はあまり変わらないので、何とかしなければと考えている。
- 生涯学習も含め複合施設化を考える必要がある。また、同時に小中一貫校も含めた議論をしたい。

（回答要旨）

- 再配置計画は、市内の学校の配置が適正なのかということから進めており、今の配置で検討した結果、統合が一番望ましいとなったと解釈してほしい。そして複合施設としては、学校体育館を学校だけでなく体育施設として活用

する考え方もある。また、七宝北中の生徒数が少ないから小中一貫校で適正な規模として行うこともあると思う。そうなると宝小、秋竹小はなくなるということだが、再配置計画にはどちらにするか示していない。今の段階で示すのは難しいため、今後 10 年間でいろいろ模索し、より良い方法を導いていけばいいと考えている。

(意見要旨)

○飛島村はすでに小中一貫校、愛西市が現在 2 中 4 小から 1 小中にすると聞いているが、あま市と違うところは宝小、秋竹小にしても単学級だが児童はいる。100 人を割るということはまずない。愛西市の八開の学区では今の 1 歳児が 2~3 人しかいないという状況だから一貫校の議論をしている。あま市の場合将来的に適正規模に配慮しつつ小中一貫校も考慮に入れて 5 年、10 年のスパンで考えればいいと思う。また、複合施設にする場合は、いずれにしても学校の改修が必要。福祉（児童クラブ等）や教育委員会内の生涯学習、スポーツでは体育館の一般開放がすでに事業になっているので、ある意味では複合施設化になっている。教育委員会と企画政策課が音頭をとって次の一歩を踏み出し、複合化に向けたマッチングの検討が必要。

(回答要旨)

○今後 10 年で、愛西市のように 1 クラスもできないことはないと思う。今後の都市計画の変更や新庁舎周辺の地区計画により市街地が増えれば宝小、秋竹小の児童は増え、学校は残ることになる。複合施設の場合は市民が率先して使える施設を作らなければいけない。また、小中一貫校の場合は児童生徒が少なくなったことによる小規模なものではなく、大規模な小中一貫校でもいいと思う。おそらくあま市では大規模なものになると思う。

○東京都では、800 人規模での小中一貫校がある。本市では多くても 600 人位を想定している。

○グラウンドやプールなどが一つになるなど合理化ができる。また、例えばプールが本当に必要なのかといった議論も深めていきたい。

(意見要旨)

○現在の学校の位置が調整区域にある。今後は、まちづくりや都市計画を踏まえて学校の位置を考えないと統廃合は難しいと思う。

(回答要旨)

○今回の秋竹小を廃止するというのはその面があり、七宝地区において、秋竹小、宝小、七宝小の位置関係が近すぎるということで、秋竹小を廃校にした方がいいと「配置」のことだけで言っている。

(意見要旨)

○七宝町時代にそこに建てたのは、当時学校が必要であったということ。

(回答要旨)

○当時は周辺の人口が増えた時があったので秋竹小も宝小も児童が 500 人位いた。しかし都市計画上では調整区域なので新しく人が増えず、その後急速に児童が減っていった。

○次のところの開発を考えていかなければならないのが、本来の都市計画。

(意見要旨)

○次の議題にもあるが、スポーツ施設についても将来を見据えて整備してほしい。

(回答要旨)

○スポーツ施設に関しては、あま市だけで考えるのではなく、例えば 1,000～2,000 人規模の施設を海部津島で造っていききたい。

(意見要旨)

○1,000～2,000 人じゃなくて、もっと大きなものを造って欲しい。

(回答要旨)

○本市のような 10 万人弱の自治体では難しい。人口 30 万人以上の海部津島地域で考えていかなければならない。中核都市のレベルで施設造りをしないと難しいと思っている。

(意見要旨)

○名古屋から西の地域は、県の施設も含めて立派な施設がない。

(回答要旨)

○近隣では津島市の東公園に野球場、稲沢市に陸上競技場があるのみ。

○市内の施設では、例えばアジア大会の競技を誘致しようとしても公式会場として誘致することができない。そのため練習会場の候補に手を挙げている。

(意見要旨)

○ある程度大きな大会を呼ぼうとすると少なくともあま市で 1 つ集中的なものがないとできないだろうし、逆にそれを造ると各地区の人たちが利用しにくいという反発を受けると思う。だから西部、東部、南部の各地区に総合複合施設を造るのか、大きい施設を一箇所に造るか、その選択は必要になってくると思う。

(回答要旨)

○いろんな考え方があると思う。観客席がある施設を整備するならば、海部津島地区で造らなければいけないと思うし、複合施設として市民が体育施設を必要とするならば、学校の体育館を利用しながら地域スポーツをやるというすみ分けが出来てくると思う。

(意見要旨)

○とにかく差し迫った問題として長寿命化計画を立てなければならない。国の補助金の要件になっている。

(回答要旨)

○長寿命化計画については、施設の耐用年数を通常の 60 年から 80 年に延ばすため、大規模改修を途中に行う計画。再配置計画にできるだけ準拠した内容で作成する予定。

(質疑要旨)

○今後公民館等を廃止していくとなると、国庫補助金や財産処分との関係は確認済か。

(回答要旨)

○年数などを確認済。

(意見要旨)

○公共施設の統廃合等の問題は重いものなので、市長の頑張りが重要となってくる。

(回答要旨)

○再配置を実現する際は、最適な場所を選定し、決断することが難しくなる。

(意見要旨)

○場所的に図書館は不便。図書館は利用したい人が多いので、皆さんが利用しやすい施設を提案できると思う。

(意見要旨)

○全ての学校内に児童クラブが整備できるよう進めてほしい。学校と別の場所にあると下校時にいろいろな危険があるし、台風などの時にも児童クラブが学校の中にあれば安全。

(回答要旨)

○これは人口減少により、結果的にこうなったものであり、国からも空き教室の活用を示されている。ただ学校内の一般教室との一線を置かなければいけない。

(意見要旨)

○学校施設の複合化は、学校以外のものが入ってくるため学校側の理解を得ることが難しい。

(意見要旨)

○学校側の意識改革が必要と考える。

【ジュニア期のスポーツ活動について】

(説明要旨)

○資料 1 の部活動指導ガイドライン 4 ページ、「(5) サポート体制の充実」では「部活動を持続可能なものにしていくためには、必要に応じて周囲の協力を得ながら、学校全体、さらには地域社会と連携し、組織的に活性化を図っていく必要がある。」とし、「ア 保護者との連携・協力」、「イ 地

域との連携」ということで、部活動が学校管理下で行われる教育活動の一環であることを踏まえ、外部指導者に対して、部活動の運営方針等について十分に理解を得た上で、適切に指導に当たるよう働きかけなければならない。」としている。

- 資料 2 は、市内 5 中学校の部活動の状況が一覧になっており、上段が男子、下段が女子で丸印が現在ある部活動。なお、七宝北中の野球部は、部員がないということで休部となっている。また、三角印は特設の部活となっている。
- 資料 3 は、特にジュニア期のスポーツ活動に関連のある団体として令和元年度のあま市体育協会の加盟団体の一覧を添付した。25 団体、延べ 3,067 人の方が会員となっている。
- 資料 4 は、令和元年度のあま市スポーツ少年団の組織として 9 つの連盟で 23 団体がある。
- 資料 5 は、あまスポーツクラブの組織図を添付した。
- 参考資料 1 は、「今後の地域スポーツ体制の在り方」特別講演の内容が記載されている。
- 参考資料 2 は、岐阜県の高山市の事例として「ジュニア期のスポーツ活動のガイドライン」を示している。
- 参考資料 3 は、半田市の成岩（ならわ）の事例として成岩スポーツクラブの情報を掲載している。
- 参考資料 4 は、埼玉県のを 1 枚紹介している。
- こういった事例を参考に、あま市版でどのようにジュニア期のスポーツ活動をフォローしていくかということが今回の議題なので、ご意見をいただきたい。

【主な意見・質疑等】

(意見要旨)

- 大会がなくなったことによる部活動の縮小や、先生の働き方改革の推進による早朝部活撤廃の動きがかなり強くなっている。実際の効果として先生の負担軽減以外にも子どもたちの睡眠時間が増えるなど非常にいい効果が出ていることを中学校の校長先生から聞いている。
- 今後は、体育協会と総合型のスポーツクラブが連携して、指導者を確保していく必要がある。現在あま市には部活動のガイドラインはあるが、スポーツ振興計画がないため、来年度に向けてスポーツ課で準備を進めてもらう。そのスポーツ振興計画を策定する審議会を立ち上げ、諮問をして 1 年かけて審議し、答申をいただく。
- 学校の意識改革をしないといけないし、体育協会や総合型スポーツクラブの

自立も促しながら、計画策定を進めていきたいと思う。

(意見要旨)

○部活動というのは本当にいい制度だと個人的に思う。

(意見要旨)

○私もそう思っている。

(意見要旨)

○ただ、現状は先生方に甘えている部分が多いので、今それを地域に担ってもらおうと思ってもすぐには難しいと思う。過去にも同様の動きがあったが失敗している。地域に面倒を見てくれる人がいない。お金もかかるが、スポーツの場合ほとんどボランティアのような形でやってもらうしかないので、本当にできるのか疑問。結論を先に言うと、しばらくは今のまま先生方にお願いしたほうが良いということになる。先生方にいつまでもおんぶに抱っこではいけないが、保護者も先生が面倒を見てくれるということで安心する。学校の中でやっているし、学校教育から地域に出すにしても、保護者の方から理解が得られる方法を考なければいけない。だけど、指導者の確保も必要だし、あま市のスポーツを推進する体制がまだ整っていないと思われるので、計画を策定するならまずはそこを整える必要がある。

○指導者の問題、顧問の問題、場所の問題、それと子どものニーズもある。

(質疑要旨)

○多治見方式の部活動、ジュニアクラブ活動、クラブ活動(生涯スポーツ活動)の3つの活動があるが上手く運営できているのか。

(回答要旨)

○上手くできているから今も続いている。スポーツ庁の例にも紹介されている。最初は大変だったみたいだが今は軌道に乗っている。成岩のスポーツクラブも最初はうまくいかなかったらしいが今も続いている。残念ながら中体連の大会は学校単位でないと出場できない。ただ生徒が減ってきて、複合チームでも4月に申し出て地区大会に出場し、勝ち進んでいけば、結局県大会まで行けるというルールがある。だから、学校の部活動と総合型スポーツクラブをどうマッチングさせるかが課題。多治見の場合は上手に、それをジュニア期、小中学校ところでやっている例。成岩の場合は成岩中学校が母体となっており、大会にも出ている実績がある。ただ、部活がやりたいという先生もいるわけだから、そういう人たちは地域の指導者になっていく必要がある。

(意見要旨)

○部活動は学校教育の一環としてやっているものなので、国が全ての考えを変えないといけない。

(回答要旨)

○多治見と半田をミックスした考えが一番望ましいと思っている。ここまで

いくにはかなりのハードルがあるのは事実。極論を言うと、部活動を廃止して地域のクラブ活動、あまスポーツクラブに全員入るというかたちにすれば分かりやすくなる。今は全国大会には出られないが、それでもはあまスポーツクラブに一本化をしていった方がいいと思う。半田のように中学校単位で中学校の体育館を利用する。そこに小学生や一般の人でも来てもいい。そういったかたちでクラブ活動をやっていくことが一番の理想になってくると思う。

(意見要旨)

○あまスポーツクラブ美和中会場とか、美和中という名前は使えばいい。

(意見要旨)

○成岩は古くから取り組んだだけあって、施設も立派だし、他と比較してずば抜けている。

(回答要旨)

○半田の他の中学校もこれに習っている。全中学校でやっていて、会員数は成岩が多分小中学生、大人も入れて2,000人位、それで月2,000円位ずつ払っている。それで運営が出来ている。半田の中で一番少なくて会員が300人位だが、300人でも運営が出来ている。指導者の報酬も払っている。一日中指導者がいるわけではなく、2時間か多くても3時間ほどしかいないが、それで成り立っている

(意見要旨)

○元々日本の部活動は学校教育からきているため、学校の部活動であれば月謝はかからない。月謝などの受益者負担が課題となる。

(質疑要旨)

○スポーツクラブの場合は、大会には出られるのか。

(回答要旨)

○成岩や半田もそうだが、例えば多治見市立何々中学校で出ることができる。

○ただし今の制度では全国大会に出ることはできない。中体連との連携が必要となる。

(質疑要旨)

○例えば、あま市でやろうと思っても指導者がどれだけ集まってくれるのか。

(回答要旨)

○問題はそこ。指導者を集めるとか、そういう組織がまだ整っていないと思う。

○でも、一步進まないことには教員の多忙化も解消できないし、今のジュニア期のスポーツ活動の推進も絶対前に進まない。成岩も多治見も学校が終わって部活動は1時間位。それからすぐクラブに切り替わる。指導者も替わる。学校の先生ではなくて、専門の指導者が付く。

(質疑要旨)

○先生はその時点で手を引くのか。

(回答要旨)

○手を引く。

(質疑要旨)

○先生がもし、「私もやりたい」という場合はどうするのか。

(回答要旨)

○指導者側に回ってもらう。その場合は立場が替わる。

○指導者として報酬が発生するかしないかは別問題。それは立場による。

(意見要旨)

○学校 5 日制導入のときに兼業兼職で土・日曜日に自分の地域に帰って指導してもらうことを実現しようと思ったが結局できなかった。学校から出て地域に入ることができなかった。

(回答要旨)

○多治見と半田で確立された仕組みは理想形だと思う。

(意見要旨)

○あま市もそれを狙っていきたい。

(回答要旨)

○両者の合算が一番いい。

(意見要旨)

○資料 4 のスポーツ指導者の月刊誌の中に、こういった学校とアスレチックトレーナーをつなぐ総合型クラブの在り方ということで、中学校の総合型クラブの在り方の特集が組まれていた。

(回答要旨)

○もともとここはサッカーが強い。

(意見要旨)

○こういう母体があるところはそれが作りやすい。やっぱり目玉になるものがある。成功のキーワードというと「学校と地域クラブの信頼関係」、「学校とアスレチックトレーナーを地域クラブがつなぐ」、「学校の理解」。学校がどうやって協力するか、先生方がそういう意識がなかったらだめ。それからもう一つは「大学（専門家）」の協力が必要だと思う。たまたま最近は保健体育の教科の免許状が取れる大学が多くあるので。そういった大学にいかに協力を得られるかがあま市のこれからのスポーツを考えていくときに学校教育も含めて必要。だから、必要であれば大学と提携を結びながら、あま市にもそういう大学に通っている人がいるはずだから、そういった子たちを上手に引っ張ってくる必要がある。

(質疑要旨)

○実際、まだ指導者を探していないのでは。

(回答要旨)

○確かにまだ探していない。

(意見要旨)

○あまスポーツクラブは、今まではトト（t o t o）の助成金と市の補助金を活用して運営していたが、これからは独り立ちしないといけない。

(回答要旨)

○中学生、小学生がスポーツクラブに入ることによって、指導者は来ると思う。今は主に高齢者が加入しているが中学生や小学生がスポーツクラブに加入することが独り立ちの条件になってくる。

(意見要旨)

○活路を開いていくためには、小中学生が授業後に土日も含めて行くことができる、スポーツ少年団との競合があると思うが、協力を願いながらやっていく必要があると思う。

○今は、あまスポーツクラブもスポーツ少年団も体育協会もこの議論をしていないのでは。

(回答要旨)

○まだしていない。

○あまスポーツクラブは独り立ちができないということに危機感を感じている。例えば市内の体育施設の指定管理者にして欲しい。それはいいと思う。でもそれが運営資金として成り立つかという点と決してスポーツクラブとしては成り立たない。そうなってくるとやはり先ほどの多治見、または成岩方式というのが出てきて、最終的にはここに必ずたどり着く。ならば早いうちから苦勞をしてでも多治見、成岩方式を採用したほうがいい。

(意見要旨)

○やはり、スポーツ審議会できちんと答申をもらって、学校教育、学校とスポーツの在り方、一般の生涯スポーツを含めた計画を立てて5年、10年のスパンで実施していく必要がある。

(回答要旨)

○早めに審議会を立ち上げ、早めに計画を策定して、あらゆる分野の人に理解をしてもらわないといけない。

(意見要旨)

○その際に自分の競技のことだけ言ってはいけない。

(回答要旨)

○あま市のスポーツをどうして行くのかという観点から策定する必要がある。

(意見要旨)

○最近大型ショッピングセンターで期日前投票をやっている。期日前投票は公共の施設でやるものだと思っていた。同様に中学校で部活をやるのは当たり

前と思っているが、「中学校で」にこだわらず、一般のクラブに月 1 回入れてもらうとか、一般のクラブの方が中学校に来るなど地域の方とふれあうことで、中学校でやっていることを、地域の方が先輩の目で見たりもする。今までの固定観念を取り外してやってみるのもいいと思う。

(回答要旨)

○それが今の多治見と成岩だと思っている。ひとつの場所にみんなが集まるのも交流だが、方法としてはいろいろある。部活動をなくすのは極論だが、世代を超えた交流を実現するには、今のあまスポーツクラブに児童生徒が加入することが一番望ましいと思う。

その他

○次回第 2 回のあま市総合教育会議の開催時期は現在のところ未定。事前に日程調整のうえ決定する。